

国土交通

no.146

2017.10~11

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

MLIT

国土交通 No.146

MLIT 2017.10~11 平成29年9月発行(隔月発行)
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

●編集発行：国土交通省大臣官房広報課 〒100-8918 東京都千代田区鷹取2-1-3 TEL.03-5253-8111 (代美)
本誌はホームページでもご覧いただけます。 <http://www.mlit.go.jp/page/kouhoushi.html>

●編集協力：日経印刷株式会社
ISSN 1346-7107



特集

目指すは「世界の北海道」 第8期北海道総合開発計画始動

現場力

北陸地方整備局

立山砂防事務所 水谷出張所

訪れたいまち

埼玉県鴻巣市



Autumn GREEN CARNIVAL

花と緑と人と都市のカルテット

ひろげよう 育てよう みどりの都市

都市緑化月間

2017.10/1~31

わたしたちは花とみどりで東日本大震災・熊本地震の復興支援をいたします。

【主催】国土交通省／都道府県／市町村 【企画制作】公益財団法人都市緑化機構

【協力】都市緑化推進運動協会

一般社団法人 建設広報協会	一般社団法人 日本植木協会	一般財団法人 沖縄美ら島財団	公益社団法人 日本家庭園芸普及協会	公益財団法人 都市緑化機構
公益財団法人 日本花の会	一般財団法人 日本緑化センター	一般財団法人 日本造園修業協会	一般社団法人 日本公園施設業協会	
一般社団法人 日本公園緑地協会	一般財団法人 公園財団	一般社団法人 日本屋外広告業団体連合会	公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会	
一般社団法人 日本造園建設業協会	一般社団法人 日本造園組合連合会	一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会	一般社団法人 日本運動施設建設業協会	

このポスターは、「宝くじ」の社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

目指すは「世界の北海道」 ～第8期北海道総合開発計画始動～

北海道開発の歴史は明治2年(1869年)の開拓使の設置に始まり、およそ150年間にわたって途切れることなく、国の重要施策の一つとして進められてきました。昭和25年(1950年)に北海道開発法が制定されて以降、昭和26年(1951年)策定の第1期北海道総合開発計画から平成20年策定の第7期計画に至るまで、国民経済の復興や人口問題の解決、産業構造の高度化、エネルギーや食料の供

北海道開発の歴史

●北海道総合開発計画は、北海道の資源・特性を生かして、地域の発展とわが国の課題解決に貢献するため、国が策定する計画。

●第8期北海道総合開発計画では、「世界の北海道」をキャッチフレーズに、「食」と「観光」を戦略的産業として位置付け、「生産空間」を支え、「世界水準の価値創造空間」の形成を目指していくことを2050年の長期を見据えた計画のビジョンとしている。

ここがポイント!



「世界水準の価値創造空間」の形成を目指す

給など、時代の変遷により計画の主眼は変化してきましたが、一貫して、その時々わが国が直面する課題の解決に寄与することを目的とし、計画的に開発を推進してきました。

150年弱の北海道開発の結果、明治2年には約5万8千人であった北海道の人口は昭和33年(1958年)には500万人超に達し、名目道内総生産は20兆円弱にまで成長しました。今日の北海道は、フィンランドやアイルランドなど、欧州の一国にも匹敵する規模の地域経済社会を形成するに至っており、北海道固有の資源・特性を生かしながら、わが国全体の安定と発展に大きく貢献しています。

第8期目となる「北海道総合開発計画」を平成28年3月に策定

北海道の魅力は? と聞かれたら、何を想像するでしょうか。雄大な自然、豊富な水産資源、広大な農地、冷涼な気候、パウダースノーで滑るスキー...など、いくつか挙げられると思いますが、今、北海道が強みとして特にアピールするもの、それは「食」と「観光」です。

食料自給率(カロリーベース)約200%を誇

特集

目指すは「世界の北海道」

～第8期北海道総合開発計画始動～

「世界水準の価値創造空間」の形成を目指す 3

国土審議会北海道開発分科会特別委員
矢ヶ崎紀子氏(東洋大学国際観光学部国際観光学科学科准教授)に聞く
観光のポテンシャルが高い「北海道」
最終ゴールは日本ファンを増やすこと 8

日本の食を支える釧路港
道東の物流拠点から
「世界の北海道」の国際貿易・交流拠点へ 10

「業務密着ルポシリーズ 現場力 FILE47」
北陸地方整備局 立山砂防事務所 水谷出張所 12

「もっと知りたい!! Vol.61」
全員一丸となって砂防工事を支える 16

「シリーズ探訪・探求 訪れたいまち 第43回」
埼玉県鴻巣市 18

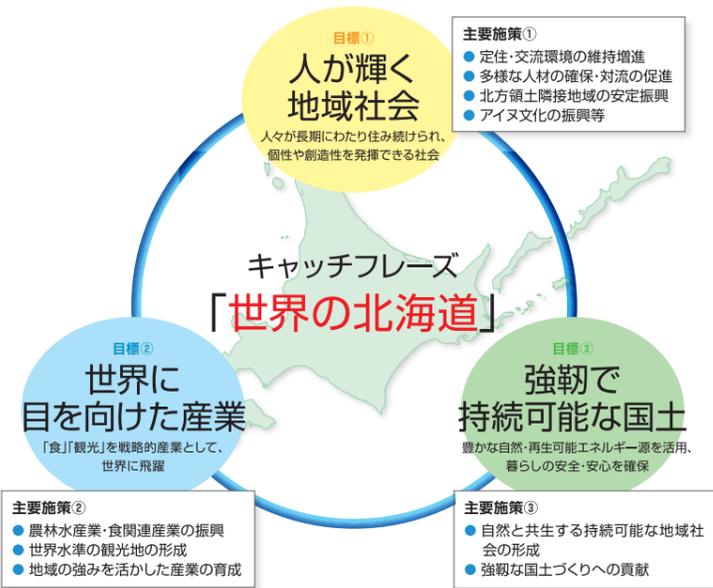
「MLIT TOPICS」
「ごども霞が関見学ツアー」を開催しました 22

CONTENTS

※1 出典 北海道調べ
※2 出典 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

目指すは「世界の北海道」
～第8期北海道総合開発計画始動～

新たな計画の概要

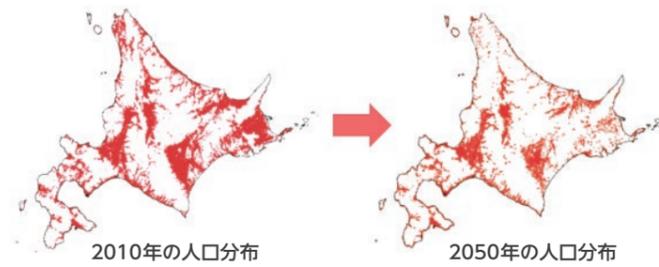


第8期計画の主な取り組み

「世界水準」の観光地の形成に向けて

北海道を訪れる外国人旅行者は、平成28年に200万人を超え、日本を訪れる外国人旅行者数の約1割を占めています。その旅行者の国別地域別割合を見ると、アジア圏からの旅行者が全体の約9割を占めています。中国および台湾からの旅行者がそれぞれ約54万人と全体の約半数を占めており、次いで韓国、香港、タイの順となっています。宿泊先は、約7割が札幌市や小樽市、登別市などを含む道央圏に集

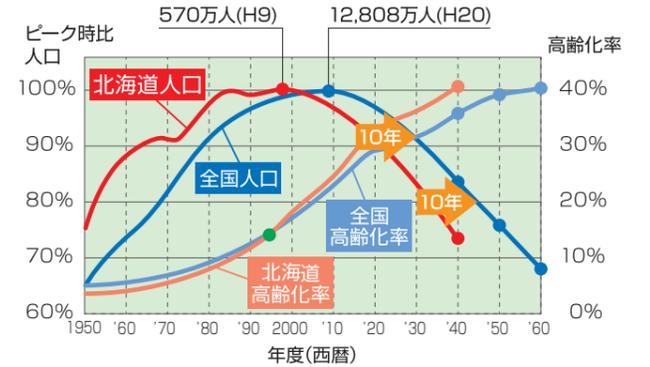
人口分布の推計



2050年、地方部では無人化が急速に進行

出典：総務省「平成22年度国勢調査」、国土交通省「国土数値情報（土地利用3次メッシュ）第2.3版」・「国土数値情報（将来推計人口メッシュ（国政局推計）」）を基に北海道局作成

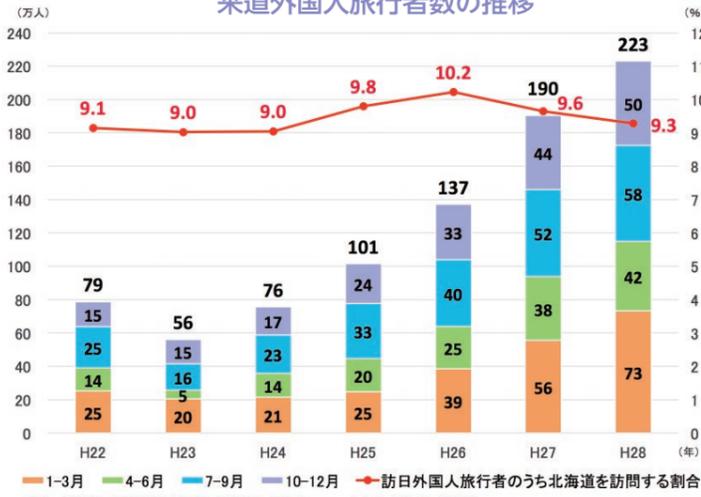
人口および高齢化率の推移



北海道の人口減少は全国よりも10年程度先行して進行

出典：総務省「国勢調査」・「人口推計」、国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）・「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」、沖縄県「沖縄県統計年鑑」を基に北海道局作成

来道外国人旅行者数の推移



中しており、今後は道央圏以外の地域において、いかに外国人旅行者を呼び込んでいくかが課題となっています。また、北海道内の月別外国人宿泊者数を見ると、緑豊かで冷涼な夏にピークを迎える地域、反対に、スキーシーズンである冬の数カ月間のみ集中する地域など地域ごとに季節による変動が非常に大きいといった特徴が見られます。さらに、外国人旅行者数が増加している一方で、日本人旅行者数は、平成11年度をピークにほぼ横ばいという現状にあり、時代のニーズに応じた付加価値をいかに創出していくかが課題となっています。こうした状況を踏まえ、第8期計画では、来

北海道の広さ



また、世界に目を向けると、わが国を取り巻く経済社会情勢は刻々と変化しており、中国などのアジア諸国の経済発展により生み出された巨大なグローバル市場の需要の取り込みや、TPP環太平洋パートナーシップ協定などをはじめとした世界経済の連携・一体化に伴う競争激化など、進展するグローバル化や国際環境の変化にも対応していかなければなりません。さらに、気候変動などに伴う風水害、土砂災害の頻発・激甚化に対し、ハード・ソフトの両面から防災・減災対策を進めるとともに、高

世界水準の観光地とは

そこでしか得られない「特別な体験」が地域にあることに気付き、それを観光資源として生かしてビジネスへと高め、地域が一体となって支えている地域。



道観光客の玄関口となる新千歳を始めとする空港や大型クルーズ船を受け入れる港の環境整備・改善など、ゲートウェイ機能を強化していくほか、観光地への交通アクセスの改善を図るため高速交通体系の整備、雄大な景観を楽しむドライブ観光やサイクルツーリズムの推進など、北海道が「世界水準」の観光地として認知され、人々を引きつける地域となるよう、さまざまな取り組みを戦略的に展開していきます。

第8期計画では、「世界の北海道」をキャッチフレーズに、「世界水準の価値創造空間」の形成を目指していくことを2050年の長期を見据えたビジョンとして掲げ、この形成に向けて、「人が輝く地域社会」「世界に目を向けた産業」「強靱で持続可能な国土」の3つの目標を設定しています。また、人口減少下にあっても世界と競争し得る高いポテンシャルを有する「食」と「観光」を戦略的産業として位置付け、農林水産業や観光などを担う生産空間を支えながら「世界の北海道」を目指すとしています。

※3 主として農業・漁業に係る生産の場（特に市街地ではない領域。生産空間は、生産のみならず、観光その他の多面的・公益的機能を提供している。）

※4 世界的なブランド力・価値創造力を持ち、世界の人々に評価される地域となること。

COLUMN

外国人観光客に、
魅力あふれる北海道の
ドライブルートをガイド&サポート!

北海道を訪れる外国人観光客は主に道央地域を訪れていますが、せっかく北海道に来たのだから、道央以外の地域の雄大な自然の風景や温泉、その土地ならではの味覚を体験してもらいたいものです。そこで外国人観光客に、レンタカーを利用して道内各地に足を伸ばしてもらおうと、「北海道ドライブ観光パス社会実験」を行っています。

平成28年度は対象を「ひがし北海道」地域に限定し、10月1日から11月30日までの2カ月間、レンタカーを借りる外国人観光客に124施設の特典付き観光パス(クーポンブック)を配付することで、観光客を「ひがし北海道」へ誘導する取り組みを行いました。レンタカー店舗などで約2000冊の観光パスを配布したところ、29施設で60冊113枚のクーポンが利用され、アンケート回答者の約3割から旅行先の選定で影響があったとの回答がありました。

本年度は、9月1日から11月30日までの3カ月間、特典提供施設を北海道全地域(札幌市を除く)に拡大し、スマートフォンアプリ「Drive Hokkaido!」(株式会社ナビタイムジャパン提供)を活用して、特典提供施設の情報発信、観光ガイドや景色の良いドライブルート案内を行います。



Aoi Ike (Blue Pond)
青い池

This is a blue pond resulting from a construction project in undertaken in order to protect against a volcano disaster at Mt. Tokachi. It is said that the color of the pond looks different depending on the occasion; the cause of this is still not clear. Trees such as Japanese larches that have withered away within the pond creates a hugely fantastical image that many tourists have come to see in recent years. Around June is when the young green leaves in the pond periphery, the blue pond shining a cobalt blue color, and the background of the Tokachi mountain ranges with lingering snow, all come together to create and even more fantastical sight.

RELATED SPOT



Blue Pond (Aoi Ike)

アプリ「Drive Hokkaido!」
の画面の一部

アプリはすでに公開済み。外国人のお友達が北海道旅行を計画していたら、ぜひ教えてあげてください。
ホームページ <https://hokkaido.japandrive.com>



※5 出典 農林水産省「漁業・養殖業生産統計」
※6 出典 函館税関「北海道貿易概況」

の各段階で主体的な取り組みを促進し、「稼ぐ力」を磨いていく必要があります。食に関わる幅広い産業と関連機関(官民)がオール北海道で今まで以上に緊密に連携・協働できる体制を整備し、6次産業化などにつなげていくことで、北海道ならではの食の総合拠点づくりに向けた取り組みを進めていきます。

◆北海道の食と観光を支える
「生産空間」の持続的発展に向けて

本格的な人口減少時代にあつては、「人こそが資源です。地域が持続的に発展していくためには、そこに関係する人々が、その個性を最大限発揮し、新たな「価値」の創造が活発に行われる地域社会を形成していかなければなりません。多様な人々を引きつけ、活力ある地域社会を維持していくためには、地域内外の交流・

協働を促進し、人口減を地域の課題解決・活性化に携わる活動人口の増加でカバーするとともに、地域づくりを担う人材を発掘・育成し、未来に向けて地域が動き出すきっかけを醸成していくことが重要です。今後は、人的資源の開発に着目し、人々の集積の薄さをコミュニケーションの密度でカバーしながら、「価値創造力」を強化していく取り組みを推進していきます。

水田の大区画化・汎用化

【整備前】小区画、不整形、排水不良

【整備後】大区画化、排水改良

【新たな営農の展開】
水田の排水改良により
キャベツの作付け可

【新技術の導入】
GPS付き無人トラクター

◆「食」の総合拠点づくりを目指す
北海道の農業には、開拓の歴史が生んだ高いポテンシャルがあります。大規模で専業農家主体のダイナミックな農業経営、豊富な地域資源などは、北海道ならではの柔軟性や耐力を生み、新たな価値の創造力につながります。

水産物の高度衛生管理

電動フォークリフト

清浄海水給水柱

電動フォークリフト

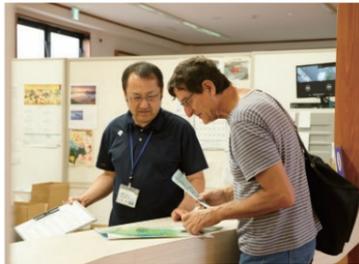
屋根付き岸壁

荷さばき所など

清浄海水導入施設

就農者の高齢化や担い手不足が深刻化する中、北海道が持つ食料生産の高いポテンシャルを生かすためには、新技術の活用や経営形態の革新などを積極的に進めることが重要です。このため、GPS自動走行システムの導入による自動運転トラクターなど、ICT(情報通

信技術)やロボット技術を活用したスマート農業を促進していきます。また、農地の大区画化・汎用化(水田に野菜などの作付けを可能とすること)などの基盤整備を進め、担い手への農地集積による生産コストの低減や高収益作物の作付け拡大などにより、農業収益力の向上を推進していきます。さらに、災害リスクの高まりに対応するため、農業水利施設などの耐震化や洪水被害防止などの対策を推進していきます。北海道の食のセールスポイントは、農業だけではありません。水産業においても全国水揚げ量の3割を占める重要な拠点です。食料品等輸出額の約9割を占める水産物・水産加工品は、高鮮度で安全かつ安定的に供給することを期待されていますが、近年、特に日本海海域においてホッケやスケトウダラなどの回遊性資源が減少傾向にあります。このため、安定した生産・出荷が可能な養殖・栽培漁業の普及を促進していくとともに、水産資源の回復および管理を図るため、漁獲可能量制度などによる公的な資源管理の取り組みを推進していきます。また、高鮮度で安全な水産物の安定供給を図るため、屋根付き岸壁などの施設整備と併せた高度衛生管理対策や漁港施設の地震・津波対策、長寿命化対策などを推進していきます。これらの取り組みに加えて、「食」の高付加価値化・競争力強化を図るため、農林水産物や食品の安全性向上・ブランド化、産産間での連携や新たな価値の創造など、生産・加工・流通



日本政府観光局 (JNTO) から
外国人観光案内所に認定されている道の駅
「摩周温泉」。英語・中国語などの外国語
の観光パンフレットが用意されている。



「世界水準の観光地とは何か」に議論集中

——「第8期北海道総合開発計画」における観光施策の推進について、国土審議会北海道開発分科会ではどのような審議が行われたのでしょうか。

観光施策に関する議論といえば「とにかく観光をがんばる」といった精神論に陥りやすく、「観光振興＝善→思考停止」に落ち着いてしまふことが多いと感じています。しかし今回は、議論の前提となる分析されたデータが提示され、当初から委員全員で共通認識を持つことができたので、ポイントを「世界の北海道」「世界水準の観光地」に絞り、世界水準とは何かについての議論に集中しました。

観光地は広いので、一度では全てを見ることはできません。再び来てもらえるように仕向けることが大切です。北海道の場合は、周遊して楽しんでいただくことも、同じ場所でも何度もアクティビティを楽しんでいただくことも可能です。

——今後、北海道に外国からの観光客を呼び込むために何をすべきだとお考えですか。

インバウンドの最終ゴールは、消費額を増やすことではなく、日本ファンをつくること。日本ファンが増えるということは、国際社会での日本の行動に理解を示す人が増え、また、日本製を選んでくれるようになり、農林水産物やものづくり産業の輸出を支援してくれるということです。

「その「世界水準」についての議論は、どのように進みましたか。

私からは、世界水準という状況を維持していくための仕組みが肝要だと意見しました。今の時代、瞬間風速で世界に躍り出ることは可能です。良い写真が撮れば、SNSを通じて、一瞬にして観光地としての知名度は上がるからです。しかし、「世界水準」として定着するためには、その状態を維持していく運営体制の確立が不可欠です。また、他の委員からも、「北海道の場合は、世界水準のものが一つだけではダメ。たくさんあるという状態をつくらなければいけない」という意見が出ました。

これからは冬だけでなく夏のアクティビティ開発も必要

——観光客が行くに値する北海道の魅力とはなんでしょうか。

ターゲットによって北海道の魅力は変わります。食を楽しみたい人や、自然を愛する人にとっては、これほど魅力的な場所はありません。北海道の自然は、「アジアの宝石」といわれるくらい、奇跡のように美しく珍しい自然です。そして、雪。冬のニセコには、オーストラリア

からスキーを目的としたファミリー層がたくさん訪れています。今後は、夏のアクティビティも高めていくことが必要です。

——北海道における夏のアクティビティとして魅力を感じることはありますか。

例えば、釧路が挙げられます。国立公園の中でトレッキングやバードウォッチングをしたり、釧路川でカヌーを体験したり。国立公園では、動植物の観察をするイギリスの方をよく見かけます。また、夏の過ごしやすさは道内でも指折りですから、ジョギングやサイクリングにも適していますし、釣りも楽しむことができます。AITAとの連携も始まり、今後は、北海道全体のアドベンチャーリズムの質の向上をけん引してくれるのではないのでしょうか。

北海道は観光のポテンシャルがすごく高い地域です。道産子として生まれ育ち、いくつかの海外も見て、観光の勉強もした上で、もう一度北海道を見て、素晴らしい地域だと思えます。だからこそ、この魅力を生かして発展させてくれる人材が育つことに期待を寄せています。

※1 各国・地域のメディア、政府観光局、観光協会、アウトドアカーなどによって構成され、およそ100カ国1000名以上のメンバーが参加する世界で最も権威のあるといわれるアドベンチャーリズム組織団体。本拠地はシニバル。アクティビティ、自然・異文化体験の3要素の内、2つ以上で構成される旅行。



外国人に人気のニセコ

国土審議会北海道開発分科会特別委員 矢ヶ崎紀子氏(東洋大学国際観光光学部国際観光光学科准教授)に聞く 観光のポテンシャルが高い「北海道」 最終ゴールは日本ファンを増やすこと



写真に特化した世界的に人気の SNS「インスタグラム」に投稿された北海道の写真の数々 (ハッシュタグ #hokkaidotrip で検索)

「世界水準の観光地とは何か」に議論集中

——「第8期北海道総合開発計画」における観光施策の推進について、国土審議会北海道開発分科会ではどのような審議が行われたのでしょうか。

観光施策に関する議論といえば「とにかく観光をがんばる」といった精神論に陥りやすく、「観光振興＝善→思考停止」に落ち着いてしまふことが多いと感じています。しかし今回は、議論の前提となる分析されたデータが提示され、当初から委員全員で共通認識を持つことができたので、ポイントを「世界の北海道」「世界水準の観光地」に絞り、世界水準とは何かについての議論に集中しました。

各地域が考えるのはベストでいくのか オンリーワンでいくのかの選択

——広大な土地を持つ北海道では、それぞれの地域で観光資源を際立たせる必要があるのでしょうか。

そのとおりです。「世界水準」には二つの意味があります。一つは、同じようなものを持っている地域と比べても際立っている「ベスト」であるということです。もう一つは、どこにもないものがあるでそこに行くしかない「オンリーワン」であるということです。各地域が、ベストでいくのか、オンリーワンでいくのか考えて際立たせていただきたい。例えば、「ニセコ」のパウダースノーはオンリーワンです。しかし、スキーなどをしない人にとっては魅力ではありま

やがさきのりこ 矢ヶ崎 紀子 PROFILE

株式会社住友銀行、株式会社日本総合研究所を経て、2006年九州大学大学院法学府政治学専攻修了。2008年から2年6カ月、国土交通省観光庁参事官(観光経済担当)を務める。首都大学東京都市環境学部特任准教授などを経て、2014年から現職。専門分野は観光政策論および観光産業論。



目指すは「世界の北海道」 ～第8期北海道総合開発計画始動～



釧路商工会議所
伊関 義和 運輸交通部会長



釧路市水産港湾空港部
梶 光貴 次長

また、港は海上輸送と陸上輸送の結節点で

率な輸送を強いられています。国際物流ターミナルの整備効果として、釧路市水産港湾空港部の梶光貴次長は「本事業により、北米至近の釧路港をファーストポート（入国港）とした穀物の大量一括輸入が可能となり、釧路港から東日本の各港湾への複数港寄りの配船が実現します。東日本における穀物の効率的な海上輸送網を形成し、穀物の安定的かつ安価な供給、関連産業の国際競争力強化に寄与できると考えています」と話します。



平成29年度完成予定の西港区第2埠頭の係留施設
(水深14m、延長300m)

東港区は海に親しむ親水空間と観光拠点の形成を目指す。世界とつながり、大きく変容する釧路港。その基底には、平成23年に策定された「釧路港長期構想」があります。この構想の目標年次は平成50年代前半。釧路港の目指すべき姿として「外内貿易物流拠点」「エネルギー基地」「国際交流拠点」「防災拠点」の4項目、実現する導入機能として7項目を掲げています。

また、港は海上輸送と陸上輸送の結節点で

率な輸送を強いられています。国際物流ターミナルの整備効果として、釧路市水産港湾空港部の梶光貴次長は「本事業により、北米至近の釧路港をファーストポート（入国港）とした穀物の大量一括輸入が可能となり、釧路港から東日本の各港湾への複数港寄りの配船が実現します。東日本における穀物の効率的な海上輸送網を形成し、穀物の安定的かつ安価な供給、関連産業の国際競争力強化に寄与できると考えています」と話します。

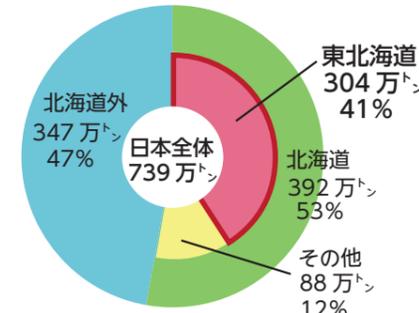
また、港は海上輸送と陸上輸送の結節点で

率な輸送を強いられています。国際物流ターミナルの整備効果として、釧路市水産港湾空港部の梶光貴次長は「本事業により、北米至近の釧路港をファーストポート（入国港）とした穀物の大量一括輸入が可能となり、釧路港から東日本の各港湾への複数港寄りの配船が実現します。東日本における穀物の効率的な海上輸送網を形成し、穀物の安定的かつ安価な供給、関連産業の国際競争力強化に寄与できると考えています」と話します。

また、港は海上輸送と陸上輸送の結節点で

クルーズ船フォーレンダム寄港時の市民によるお見送りの光景

生乳生産量 (2016年)



出典：牛乳乳製品統計（農林水産省）
経済情勢報告（財務省北海道財務局）

あるとともに、イベントなどを通じた交流拠点として利用されています。一方、西港区は製造業や物流の拠点として利用されており、酪農、製紙業などの基幹産業に関連するバルク貨物やシャシー、コンテナなどのユニットロード貨物が取り扱われています。

わが国有数の食料供給地域を支える港。北海道の太平洋側東部に位置する重要港湾「釧路港」は、北海道総面積の43%に当たる道東の物流拠点として重要な役割を担っています。また、釧路港を利用する背後圏の道東地域は、日本の生乳生産量の40%以上を生産しており、わが国有数の食料供給地域を支える港湾としても重要な役割を担っています。

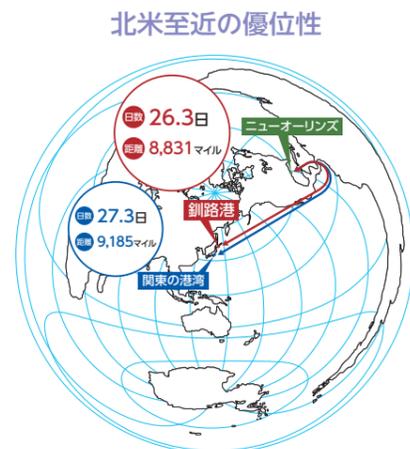
わが国有数の食料供給地域を支える港

日本の食を支える釧路港 道東の物流拠点から 「世界の北海道」の国際貿易・交流拠点へ

西港区は大型バルク船に対応するため港湾整備に着手。平成23年、国土交通省は、鉄鉱石、石炭、穀物の安価かつ安定的な輸送を実現するため、国内10港を貨物の輸入拠点とする「国際バルク戦略港湾」として選定しました。釧路港は穀物

わが国有数の食料供給地域を支える港。北海道の太平洋側東部に位置する重要港湾「釧路港」は、北海道総面積の43%に当たる道東の物流拠点として重要な役割を担っています。また、釧路港を利用する背後圏の道東地域は、日本の生乳生産量の40%以上を生産しており、わが国有数の食料供給地域を支える港湾としても重要な役割を担っています。

わが国有数の食料供給地域を支える港。北海道の太平洋側東部に位置する重要港湾「釧路港」は、北海道総面積の43%に当たる道東の物流拠点として重要な役割を担っています。また、釧路港を利用する背後圏の道東地域は、日本の生乳生産量の40%以上を生産しており、わが国有数の食料供給地域を支える港湾としても重要な役割を担っています。



トモロコシの主な輸入先であるニューオーリンズ港から至近の位置。関東の港湾に比べ、釧路港は1日程度の運航日数の短縮が可能であり、海上輸送コストの削減を図ることができる。

毎日新鮮な生乳を首都圏へ運ぶ RORO 船



毎日新鮮な生乳を首都圏へ運ぶ RORO 船

北陸地方整備局
立山砂防事務所 水谷出張所

2億立方メートルもの堆積土砂を擁する立山カルデラ。ひとたび大雨となれば、富山市などの平野部は甚大な土砂災害の危険にさらされます。土石流の脅威から90年にわたって人々の暮らしを守り続けてきた砂防事業に取り組み職員を紹介します。

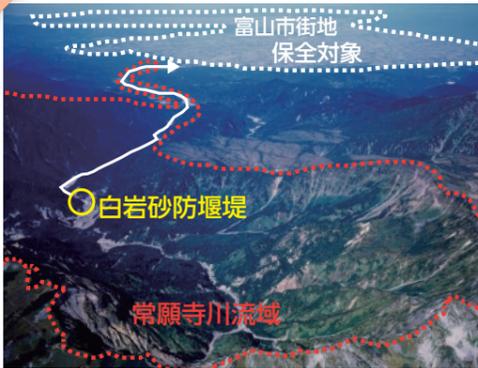
脆弱な立山カルデラと急流河川の常願寺川
大自然の猛威に挑む砂防事業の雄志を引き継ぐ



多枝原展望台より遥か浄土山まで立山カルデラの稜線を見渡す

立山黒部アルペンルートの南側に位置する「知られざる立山カルデラ」

富山地方鉄道立山駅の近隣にある立山砂防事務所から、車で揺られること約1時間半。有峰林道の折立(薬師岳登山口)に入る頃「これから、立山カルデラへと向かいます。工事関係者しか入れない広大な工事現場であり、中部山岳国立公園の一部です」と案内され、車中でヘルメットを装着。車は外来種の種子を持ち込まないようタイヤを洗浄します。さらに30分ほど山道を登り、かつて軌道路線の一部であった白岩トンネルを抜けると、ようやく立山カルデラの砂防工事前線基地である水谷出張所に到着しました。



国土交通省 北陸地方整備局 立山砂防事務所 提供
立山カルデラから富山市街地を望む

今回の取材地である立山カルデラは、

日本三大崩れの一つである鳶山崩れの現場であり、その砂防工事は国内最大規模といわれています。火山噴出物や崩壊堆積物などの脆弱な土壌に加えて、急峻な地形や活断層などの影響で非常に崩れやすい地質構造であり、日本有数の急流・常願寺川が流れ、多雨・豪雪地帯であることから、大雨が降れば甚大な土砂災害が発生する可能性があります。堆積土砂の総量は2億立方メートルともいわれ、全てが流れ出れば富山平野を2メートルもの土砂が覆い尽くすほどです。立山カルデラの砂防事業は、度重なる崩壊で堆積した不安定な土砂の流出を防ぎ、コントロールすることで災害被害を最小限に食い止める、安全な暮らしを守るために欠かせない事業です。

立山カルデラの砂防工事に携わる水谷出張所4名の職員

出迎えてくれたのは、所長を務めて2



水谷出張所長 谷保 和則



水谷出張所や各建設事業者の宿舎がある水谷平と現場をつなぐ道は白岩トンネルだけ。旧軌道線時代のまま使っているので車幅と同じくらいの狭さ。

年目の谷保和則。工事現場を監督し、安全かつ速やかな事業執行を取り仕切る責任者です。

「立山カルデラの砂防工事は、常願寺川の上流域から富山平野まで含めた広域を土砂災害から守るための水系砂防であり、国の直轄事業としては着手してから90年が経ちました。本年度は15の現場で工事を行うっており、大勢の人が工事に従事しています。ぜひとも立山黒部アルペンルートから見る立山とは異なる『もう一つの立山』を見ていただく」(谷保)。

本年度最大規模の砂防堰堤工事

まず向かったのは、本年度砂防堰堤工事で最大規模の「湯川第13号砂防堰堤

湯川第13号砂防堰堤工事



訪れた日は快晴。標高1116メートルの水谷平には強い陽光に照らされ、万年雪の白さが際立ちます。雪深い立山カルデラで工事ができるのは6〜10月の5カ月間で

※ 宝永4年(1707年)静岡県で起きた「大谷崩れ」、安政5年(1858年)富山県で起きた「鳶山崩れ」、明治44年(1911年)長野県で起きた「禰田山崩れ」

立山カルデラ内を見渡すと、至る所で崖面崩壊が見られます。当然、法面の保護が不可欠となりますが、ここは景観重視の国立公園内。全てコンクリートで固めるのは景観だけでなく環境にも望ましくありません。そこで、立山カルデラ内の法面保護対策は鋼製ネットと植生基材吹付工を行っています。この植生基材には立山カルデラ内にある在来植物の

**自然との共存を目指し
急斜面を補強・緑化**

などを行ない、定期的な避難訓練を開催することで、万一の事態に備えています。こうした安全対策を助言することも職員の仕事です。



有峰下流左岸山腹工事
写真下部が工事中の箇所。すでに工事が終わった部分(写真上部)は一見するととても人の手が加わったと思えないほど植生が進んでいる。

取材中も谷保の携帯電話には建設業者から頻繁に連絡が入り、工事現場では気さくに声を掛け合います。その様子は立場の違いを超え、砂防という目的を同じくする仲間そのもの。「監督というより、事業者

**近代から未来へと続く
たゆみない砂防の歴史**

現場試験や追跡調査などから効果を確認し全体に取り入れていく。そうした積み重ねにより、立山カルデラの砂防工事技術は日進月歩で進化してきました。その取り組みは今も続いています。

種子が入った土を吹き付け、固有の生態系に配慮した工事を行ってきました。「有峰下流左岸山腹工事」もその一つです。斜面上部に足場を組み、そこからロープで降りながらネットを掛け、アンカーで固定していきます。目くらまほほどの高さの崖面ですが、5年前より順次施工した部分は年ごとに緑が濃くなり、自然に溶け込んでいく様子が分かります。「昨年末までの現場試験で種が周りから飛んできて自然に発芽すると分かったので、今年から吹き付ける土に種を入れないことにしました(谷保)」。現場試験や追跡調査などから効果を確認し全体に取り入れていく。そうした積み重ねにより、立山カルデラの砂防工事技術は日進月歩で進化してきました。その取り組みは今も続いています。



現場に赴き、積極的に情報収集や意見交換をする谷保



出張所内での事務作業が多い小林だが、SNSでの情報発信担当として現場に同行することもある。また砂防工事専用軌道(トロッコ)で運ばれる食材の管理・納入も大事な仕事。

事務係長
小林 夏樹



現在進行中の工事だけでなく、昭和初期に建造された白岩砂防堰堤や泥谷砂防堰堤群など既存の砂防施設も、現在の砂防計画の礎として今も効力を発揮しています。長年にわたって営々と積み上げられてきた砂防の歴史は、本年もまた引き継がれ、未来へとつながっていきます。

国の重要文化財にも指定されている白岩砂防堰堤。立山カルデラのシンボルの存在。



国土交通省 北陸地方整備局 立山砂防事務所 提供

が安全・快適に工事を進められるよう環境を整えることを意識しています。気軽に相談してもらえよう信頼関係は大事ですね(谷保)。

そうした谷保らをバックヤードで支えているのが事務係長の小林夏樹です。出張所の事務用備品の発注、立山カルデラ内への入域などの申請書類の受付や工事用道路通行許可証の発行手続きなどの事務作業に加えて賄いさんの対応まで、ほぼ全ての後方支援を一人で担っています。現場に出ることは少ないものの、「現場運営のために必要な情報を一番把握しているのは彼かもしれない」と谷保が評するほどです。

「技術職員からの課題に対し、正確に対応することを意識しています。裏方として仕事の進捗をサポートするのが自分の役割。また作業される人たちの心情を思いながら、業務に当たることが心

**危険と隣合わせの砂防工事に
おける安全への取り組み**

「正直まだ判断に迷うこともあり、脇本係長や谷保所長に相談しながら経験を積んでいます。早く自分一人でも正しい判断ができるようになりたいです(野原)。

施工状況や資材、品質や安全性、労働環境など、確認することは山のようにあります。定期的なチェックに加えて今回のような突発的な確認事項も加わってくるため、基本的には脇本と野原の2名体制で確認しています。そこに谷保がサポートに入ることもあります。入省2年目の野原が一人でも業務にあたることがあります。



現場担当者の説明を聞きながら排水量のチェックを行う脇本と野原



技官 野原 正嗣



技術係長 脇本 直樹

工事」の現場。湯川と栗谷の合流点上流という要所で、平成36年度の完成を目指しています。砂防堰堤とは河川を横断して建造される長大な堰堤で、洪水時に流れ出る土砂をためて下流へ流出する土砂を調整するほか、流れにより川底や川岸が削られるのを防ぐ働きがあります。工事は川の流れを左右にずらして、片側ずつ建造する必要があり、湯川第13号砂防堰堤はようやく約半分ができたところです。本年度は左岸側(下流に向かって左側)を施工するので、水の流れを右岸側に寄せるために仮締め切りとなる土堤を築きましたが、湧き水などが現

場内にとまっています。水がたまったままでは工事ができないので、その水を排水しなければなりません。水の排水には費用が掛かるため、技術係長の脇本直樹と技官の野原正嗣が排水量やポンプの能力などの確認を行います。「現状を確認すると同時に、対処が技術的に理にかなっているかどうか、コストとして正當か。そうしたことを毎回確認します。手間もかかり、当方側にも技術的な知識や判断力が求められます。迷いや判断ミスがあれば工事に遅れが生じますし、不必要に「コストがかかるので、迅速かつ丁寧に判断することを心掛けています(脇本)」。

立山カルデラ内で最深部の現場の1つ



滝谷第1号砂防堰堤工事



警報システム・避難所は各工事現場に設置

など綿密な打ち合わせを行っています(谷保)。

滝谷に限らず、砂防工事の現場はどこでも危険が伴います。そこで工事現場内のごく近所でも確認できるように、雨量や土石流発生などを伝える警報システムが各現場に設置されています。また、数日分の食料などを常備した避難所も各工事現場に設けられています。さらに無線での情報共有や避難ルートの確認

砂防工事を支える人々



水谷寮の食事は、職員や賄いさん、看護師もみんな一緒に

限られた食材でやりくりし、職員や作業員を家族同然に支える

こうした作業員の生活を支えるのが、各建設事業者の宿舎で働く賄いさんたちです。丸新志鷹建設株式会社は、今年で29年目の佃トシさん。「初めて来た時は、あまりの寂しさに逃げようと思った」という1年目から今日に至るまで、毎朝3時に起床し朝食と昼の弁当づくり、掃除や洗濯の後夕食の支度と目まぐるしく過ごしています。「作業員さんたちは子どもや孫みたいなもの。つい食事のマナーを注意したりね」と佃さんは笑います。



佃トシさん

一方、国土交通省職員が寝泊まりする水谷寮の賄い切り盛りするのは、山口スミ子さんと柿木浩子さん。限られた食材で総勢10名の好き嫌いやアレルギーなどに配慮し、朝昼夜に「力になる料理」を振る舞います。ポリウレムのあ

る丼物が人気です。水谷平で



砂防工事で働く人々の疲れを癒やす「天涯の湯」

不便ながらも大自然と共存した居心地の良い生活

立山カルデラでの砂防工事を支える人々の癒やしの場といえば「天涯の湯」と名付けられたお風呂。上流約1kmの源泉から豊富な湯量が引かれ、男女用とも大きな岩組みの浴槽で野趣満点！ また、昔は公衆電話が1台だけだった通信環境は、現在は立山カルデラ内ほとんどのエリアで携帯電話が通じるなど、大幅に改善しました。水谷平で



(左から) 柿木 浩子さんと 山口 スミ子さん

り、木曜日の夜は刺身、金曜日の昼はカレーライスが定番料理として食卓に並びます。他にも掃除や洗濯なども担い、せわしい毎日ですが、孫と毎晩のように連絡したり(柿木さん)、テレビを見てのんびりしたり(山口さん)するなどを楽しみながら「みんな家族」という気持ちで支えています。

山の仕事は健康管理が必須であり、急病や作業時でのけがの危険もことから、医療施設として水谷救急所が設けられています。平成11年より開始された月3回の医師の往診に加えて、平成13年から導入された遠隔医療支援装置による医師の診断・問診が受けられます。常駐看護師の宮本美枝さんは前任者の紹介で赴任し、今年で14年目。開所以来、防災ヘリコプターによる緊急搬送が2回あったものの、平時は来診者も少なく、あつても持病の薬の処方や簡単なケガの手当程度となっています。美しい空気のもと喘息は軽減し、風邪も流行しないそうです。「救急所は忙しいのが一番ですが、いざという時に備えています。全員が無事に下山できるようにと願っています」(宮本さん)。



看護師の宮本 美枝さん

遠隔診療も可能な救急所が「つやうじつ」時のよりよい居

使用する洗浄剤は自然分解性の高いものであり、浄化槽やバイオ式生ゴミ処理機の設置など、環境への配慮がされています。それでも多少の不便は否めないものの、大自然の眺望と美しい空気や水、大家族のような居心地の良さもあつてか、下山時は「水谷平での生活が終わってしまう」というちょっとした寂しい気持ちになるそうです。



水谷平全景。奥にある水谷出張所から延びるレールは砂防工事専用軌道(トロック)の線路。写真手前には各建設事業者の宿舎が並ぶ。



水谷平北側の斜面にはここで見られない滝がある。水谷平にはこの滝のほかに雨量が多くなると出現する滝もある。出現する滝の本数で山の雨量を判断することもあるそう。この上部が立山黒部アルペンルート(立山黒部アルペンルート)の弥陀ヶ原辺り。

13事業者が工事に参加 200人ほどが共同生活

本年度は13事業者が参加し、15カ所の砂防工事に取り組んでいます。13ページで紹介した「湯川第13号砂防堰堤工事」を担当する丸新志鷹建設株式会社もその一つです。現場代理人の佐伯靖さんは「天候や工事の進捗状況により、目まぐるしく変わる現場に対応することが、砂防工事の難しさです」と語り、監理技術者の藤本一行さんも「現場の変化や不具合は常に国土交通省さんと情報共有し、適正で迅速な工事遂行を心掛けています」と連携

リート3階建ての出張所が建ち、東側には水谷寮と神社、西側には救急所と各建設事業者の宿舎が並びます。一見のどかな場所ながら、南の谷側は昭和32年(1957年)の大崩落で敷地の多くが失われ、北側には断崖絶壁が迫り、厳しい環境は工事現場と変わらませぬ。出張所や水谷寮、救急所以外の建物は各建設事業者の宿舎となっています。毎年6月の上山式後、各建設事業者の宿舎を建設することからその年の工事が始まります。

また、15ページで紹介した「有峰下流左岸山腹工事」に従事するのは新栄建設株式会社です。監理技術者の唐島幸治さんは「ロープで斜面を下りながら施工するハードな仕事ですが、立山カルデラの生態系に配慮した工法に誇りを持って取り組んでいます」と語り、現場代理人の北村涉さんも「機械や施工法が進化しても最後の要は人であり、もっと多くの人と仕事がしたいです」と語ります。

工事の効率化や機械化が進み、現在の作業員は最盛期より減っています。それでもお盆明けのピーク時には約200人が水谷平で生活し、一丸となって工事に取り組んでいます。



(左から) 新栄建設株式会社 唐島 幸治さんと 北村 涉さん

砂防工事を支える人々

立山カルデラ内の水谷平に泊まり込み 全員一丸となって砂防工事を支える

立山カルデラで砂防工事が行える約5カ月間、水谷出張所の職員や建設会社の作業員は週末以外泊まり込み、さらに職員や作業員の生活を支える賄いさんや救急所には看護師も常駐しています。過酷な砂防工事を支える人々を紹介します。

鷹山崩落土の台地の上に 夏の間だけ出現する小さな村

水谷出張所がある水谷平は、立山駅から車で2時間ほど登った立山カルデラの西の外れにあります。安政5年(1858年)の飛越地震で崩落した土砂が堆積してできた平坦地です。出張所は、昭和35年(1960年)に開設して以降、立山カルデラの砂防工事の前線基地として機能してきました。

丸新志鷹建設株式会社



佐伯 靖さん 藤本 一行さん

の大切さを強調します。同社からは十数名が従事し、海外からの技術実習生も3名が参



ネパールからの技術実習生 アディカリ ミンマ ヌルさん

第43回
シリーズ探訪・探求
訪れたいまち
こうのすし
埼玉県鴻巣市



人と自然の共生の確保を
目指す

「コウノトリも棲める自然環境は、ヒトにもやさしく健康に生きられる」を合言葉に「NPO法人鴻巣こうのとりを育む会」が環境活動を行っている。

活動のきっかけを伊藤鑄義代表理事に伺った。「平成19年から、市民に愛着のあるコウノトリを飼育・放鳥しよう」と活動をはじめました。コウノトリは水辺の生態系「フミツド」の頂点に立つ生き物です。肉食でバッタ、蛙、ドジョウなどを食べ、一日に多くの餌が必要です。コウノトリが生きていくためには、多くの生き物がいる豊かな自然が必要となります。コウノトリも棲めるということは、人間にとっても安心して生活ができる環境の証です。そのような環境を整備するために、コウノトリをシンボルとして環境活動に取り組んでいます。」

主な活動として、荒川の河川敷にコウノトリの生息環境をつくる「湿地ビオトープ（野生生物の生息する空間）の整備」や、地域の農家や環境NGOと連携して無農薬や有機栽培による

「県内初のコウノトリを育むモデル水田」を拠点とした「ふゆみず田んぼ（稲刈り後の冬の水田に水をはったもの）」、「魚道設置」などに取り組んでいる。また、子どもたちや父母を対象とした「いきもの観察会」や外来種駆除を兼ねた「自然体験」などのイベントも行っており、環境学習にも役立っている。

当初は9名で発足したが、活動が理解され、現在会員は168名に増えた。埼玉県がモデル水田や湿地で実施したモニタリング調査では、動物20種、植物77種が確認されるなど着実に自然がよみがえっている。また、冬には「ふゆみず田んぼ」にオオハクチョウが渡来するなど地道な活動が成果を挙げている。

この活動は、国土交通省の「地域の魅力や個性を生み出している良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果」として表彰する「手づくり郷土賞」を平成28年度に受賞している。今後の活動について、服部栄一理事は、「さらに多くの市民の理解を得て、未来の子どもたちへより良い自然環境を引き継いでいきたいです。今後も、コウノトリも棲める環境の整備や将来的な野生復帰に向けた取り組みを進めていきたいです」と語った。

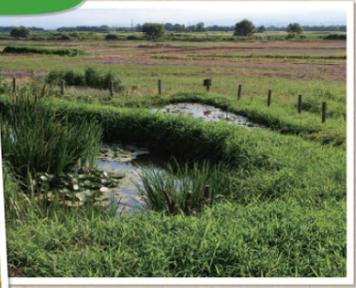
NPO法人 鴻巣こうのとりを育む会の活動



「ふゆみず田んぼ」に渡来したオオハクチョウ



子どもたちを対象とした「ザリガニ釣り」



整備された湿地ビオトープ

観光客増加による
地域活性化を目指して

鴻巣市の4大イベントである「鴻巣びつくりひな祭り」「こうのす花まつり」「こうのす

花かおり 緑あふれ 人輝くまち
こうのす

埼玉県のほぼ中央に位置し、秩父山地を源流とする荒川が流れ、関東ローム層や荒川沖積層からなる肥沃な土地で、気候にも恵まれ、花きなどの栽培が盛んなまち。古くは中山道の宿場町として栄え、380年余りの伝統を誇る「ひな人形のまち」として、また近年では「花のまち」としても全国にその名が知られている。

魅力的なまちづくりに向けて

鴻巣市は、都心から50kmという地理的条件に恵まれている。鉄道交通では、平成13年の「湘南新宿ライン」に続き、平成27年3月には「上野東京ライン」が開業したことで、東京圏への乗り入れがさらに向上した。道路交通では、平成27年10月に首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の埼玉県内区間が全線開通した。このような交通の整備により、地域交通の要衝としてのポテンシャルを生かした都心へのベッドタウンとして、また、県中部の中核都市として発展を続けている。

発展を続ける状況下であっても、人口減少社会の突入や社会情勢の変化への対応は必要であり、「すべての「人」が文化に親しみ、安全・安心、そして快適な暮らしを守るまちづくり」、「花」を生かした



鴻巣市役所に展示されている「コウノトリ」の彫製

個性的で魅力的なまちづくり、「河川や田園など豊かで美しい「緑」を守り育てるまちづくり」を基本理念に掲げて将来都市像を描いている。将来都市像の実現のため、「鴻巣という地名の由来ともいわれ、市民になじみ深い存在である「コウノトリ」をシンボルに、人と「コウノトリ」をはじめとした多様な生きものが共生する「コウノトリの里」の実現に向けた取り組みを進めている。また、観光客が増加することにより、市の認知度が高まり地域経済が活性化することを目指して、「鴻巣びつくりひな祭り」「こうのす花まつり」「こうのす花火大会」などの各種観光イベントの開催を主体とした観光客誘致にも力を入れている。

す花火大会「コスモスフェスティバル」をはじめ多くのイベントが開催され、観光客数は年々増加している。平成27年は平成23年と比較して2倍近くの約156万人が訪れた。

各種イベントのほか、関東十八檀林（僧の養成機関・学問所）の一つで、徳川家康ゆかりの寺院「勝願寺」や、鴻巣の地名の由来の一つともいわれ「こうのとり伝説」を今に伝える神社「鴻神社」などの歴史に触れる見所も多数存在している。また、江戸時代中頃から始められ、高度な技術と優れた品質で全国的に知られる「鴻巣雛」やその製作技術が平成23年3月に国の重要無形民俗文化財に指定された「赤物」などの貴重な伝統工芸も現代に伝えられている。

気候風土に適したパンジーの生産から始まった「花き生産」は、近年、生産品種の増加や生産効率の向上により発展・拡大が図られ、「プリムラ」「サルビア」「マリーゴールド」は日本一の出荷量を誇り、東日本最大級の花き市場「鴻巣フラワーセンター」も整備されている。

このような地域の資源を観光客誘致に生かそうと「一般財団法人鴻巣市観光協会」が平成24年に発足し、観光推進体制が確立するとともに官民一体となった観光資源のPRや掘り起こしを推進している。



鴻巣駅東口に模型が設置されている四尺玉



鴻巣市⇄吉見町間の川幅は2,537m。御成橋の両岸には高さ5mの標柱が立つ。

- ギネス世界記録に認定された**世界一**の四尺玉
- 同時にブーケ(花束)を贈り受け取ったペア数**世界一**
- **日本一**高いピラミッドひな壇
- **日本一**長い水管橋
- **日本一**広いポピー畑
- 「プリムラ」「サルビア」「マリーゴールド」の出荷量**日本一**
- 1分あたりの尺玉以上の打ち上げ花火数**日本一**

2つの世界一と8つの日本一に 出会えるまち

吹上夏まつり
「上組」と「下組」にわかれ、それぞれの神輿と山車が街中を練り歩く



イベント



このす花火大会
全国的にも有数の規模。今年も、10月7日(土)に行われる。



鴻巣夏まつり
中山道の3kmもの区間を歩行者天国にして実施される。神輿は12基と関東でも屈指の数を誇る。



いがまんじゅう
おまんじゅうを赤飯でまるまる包んでいることが特徴。栗のイガに似ていることからこの名前がついた。祝い事やおやつなどで親しまれてきた郷土料理。

グルメ



川幅グルメ
川幅日本一にちなみ誕生した麺の幅5センチを超える「川幅うどん」と「川幅せんべい」。他にも幅が広い餃子やスイーツなどもある。



鴻巣市ホームページ <http://www.city.kounosu.saitama.jp/>
鴻巣市観光協会ホームページ <http://www.konosu-kanko.jp/>

鴻巣市の地名の由来の1つである「このとり伝説」のこのとりのヒナをモチーフにしたメインキャラクター「ひなちゃん」

「プリムラ」の栽培。他にも「サルビア」「マリーゴールド」が出荷量日本一。



高さ7m、31段もあるピラミッドひな壇。2月中旬から3月上旬に開催される「鴻巣びつくりひな祭り」は、人形のまちならではのビッグイベント。



橋長1,100.95mを誇る赤い水管橋。秋には水管橋をバックに1,200万本のコスモスが咲き「コスモスフェスティバル」が開催される。



ポピー畑は広さ12.5ヘクタール。春には「このす花まつり」が開催される。



見どころ

勝願寺
関東十八檀林の1つで、徳川家康ゆかりの寺院。本堂などでは葵の紋を見ることができる。4月には仁王門を彩る桜、5月上旬には雪をかぶったように白い花を咲かせる「なんじゃもんじゃ」の木が見頃となる。



鴻神社
樹齢500年以上と伝わる2本のイチヨウの木があり、「夫婦銀杏」として親しまれている。明治時代に造られた総銅造りの小さなお宮「三狐稲荷神社」なども見所。毎年12月4日には西の市が行われる。



鴻巣フラワーセンター
自動せりシステムなど最新鋭の機器などを導入した東日本最大級の花き市場。施設内には見学コース(要予約)も併設されている。

「観光ボランティア鴻巣ガイド会」による名所・旧跡案内



鴻巣市観光協会
事務局 長谷川 達也さん

「観光ボランティア鴻巣ガイド会」は、訪れた方におもてなしの心をもって、余すところなく多くの魅力を紹介しようとモデルコースを作つて観光ガイドを行っている。また、観光協会では、初めて訪れた

鴻巣市産業観光館「ひなの里」



鴻巣の特産であるひな人形を中心に、江戸時代から伝わる貴重な資料が展示されている



人形産業の中心地である人形町にある。敷地内にある蔵は、平成25年10月に埼玉県の景観重要建造物に指定された。



館内では、伝統民芸品の「赤物」や鴻巣の特産品の数々を紹介・販売している。川幅うどん、川幅せんべいなどを詰め合わせた観光協会オリジナル「川幅グルメセット」がオススメ。



鴻巣の赤物製作技術は国の重要無形民俗文化財に指定された。

また、茶室など旧家のたたずまいを生かした観光施設である。岡田明館長に施設の特徴を伺った。「庭園ではバラを中心に四季折々の草花が咲いています。サロンではコンサートができ、素人からプロまで幅広い方に利用されています。春と秋にはバラ祭りが開催され多くの方が訪れますが、訪れる

将来的に都市像を明確にし、未来の子どもたちへより良い自然環境を引き継ぎたいという鴻巣。これからも、歴史や伝統文化、そして多くのまちの魅力を発信し、「花かおり」あふれ人輝くまちとして発展していくことだろう。

花と音楽の館かわさと「花久の里」



館長 岡田 明さん

母屋や長屋門など旧家のたたずまいを活かした観光施設。庭園ではバラを中心に四季折々の草花が咲き、サロンでのコンサートをはじめ、庭園祭りやバラ祭りが催される。

見たい！知りたい！がいっぱい！

「こども霞が関見学デー」を開催しました(8月2日・3日)

こども霞が関見学デーは、霞が関の府省庁などが連携して、業務説明や省内見学などを行うことにより、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、府省庁などの施策に対する理解を深めてもらうことを目的として平成8年から毎年実施しているイベントです。本年は25の府省庁などが参加しました。

こども霞が関見学デーは年々盛り上がりを見せており、本年の参加者数は25の府省庁全体で過去最多の43,484人でした。本年、国土交通省は屋上から地下までをフル活用し、29の体験プログラムを用意しました。その結果、こちらも過去最多となる3,836人の子どもたちに参加いただきました。

当日の様子

霞が関でこの夏一番の盛り上がりみせた「こども霞が関見学デー」当日の様子を一部紹介します。

メイン会場



会場はたくさん子どもたちで大にぎわい。開場前の正門には駅へ続く長蛇の列が出来ました。

ベビーカーに乗ったかわいいお客さまもたくさん来ました。国土交通省では、ベビーカー使用者と周囲の方、双方に対してベビーカーマークの意味を知ってもらい、安全に利用するための理解促進を図っています。



ご存じですか？
ベビーカーマーク



ベビーカー置き場

国土交通大臣とおはなししよう



石井大臣にたくさん質問したよ！最後はみんなで記念撮影



知ってる？空のお仕事

制服を身につけて空のお仕事体験。「さぁ大空へ出発！take off (テイク オフ) !!」



日本へようこそ！私たち1日子ども観光庁長官です(^o^)

あつまれ！子ども観光庁長官



職人さんになってみよう！



夏休みに技を学ぶ。真剣なまなざしは職人そのもの。



発見しよう！屋上と地下探検で！



普段は入れない屋上と地下を探検。環境問題への取り組みや地震対策を見て聞いて考えました。



建物免震装置を体験してみよう！

免震体験車に乗り、免震の仕組みを学びました



未来のバスに乗ってみよう！



水素で走る未来のバスに乗車！

体験しよう！鉄道の世界



安全に気をつけて出発進行！

危ないときはギュッと強く押してね



地図で学んで遊ぼう！

地図記号、全部覚えたかな？

未来の海上保安官へ



海上保安官になって敬礼！

災害対策本部を体験！



災害対策の司令塔は任せて



タクシーを知ろうよ！

「お客さま、どちらまで行きますか？」



乗ってみよう！「はたらくくるま」！

パワーショベルを運転したよ！

来年の夏もたくさんのプログラムを用意して待っているの、ぜひ遊びに来てね！

子どもたちに楽しみながら色々なことを体験してもらい、国土交通省について知ってもらいました。普段は大人ばかりの霞が関に子どもたちの笑顔が溢れた2日間でした。

